

企業市民として - 社会との共生

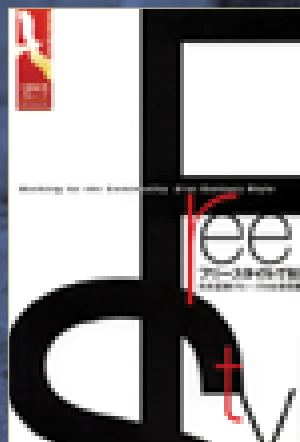
社会に受け入れられる企業市民としての活動には、2つの活動があると考えています。ひとつは、寄付や従業員によるボランティア活動に代表される社会貢献活動、もうひとつは本業である証券業務を通じた社会への働きかけです。

社会貢献活動については、以前より、大和証券ヘルス財団(1972年設立)、大和証券福祉財団(1994年設立)などを通じた寄付活動を行っており、国際交流活動として大和日英基金を1988年に英国に設立しています¹。そして、1999年7月に、従業員による主体的なボランティア活動を支援する社会貢献室がグループ本社に設置され、グループ内にボランティア精神を浸透させる活動が本格化しています。

また、大和証券グループでは、経済、金融や証券業務の知識、ノウハウ、情報はビジネス上の経営資源としてだけでなく、社会を良くしていくための経営資源としても大変有用であると認識しており、本業を通じた社会への働きかけを積極的に行なっています。



社会貢献室ホームページ



社会貢献室パンフレット
『フリースタイルで社会貢献』

1. 社会貢献活動

従業員の意識改革・啓蒙活動

グループ本社に社会貢献室が設立されて3年、グループ内にボランティアの土壌を作る地道な活動を行なっています。その第一ステップを従業員の意識改革ととらえ、2001年4月から新入社員研修に社会貢献プログラムを取り入れました。外部講師による手話教室、講演、コンサートのほか、2002年4月には研修センター周辺地域の清掃、老人ホームでのケアサポートといった実地の活動を取り入れ、ボランティア活動への意識や関心を高めています。さらに、従業員がボランティア活動を継続するためには現場の管理職の理解が不可欠と考え、2001年12月から管理職の研修にも福祉体験講座²を取り入れ、管理職自らが、市民として、またグループの従業員として、思いやりのある社会の実現のために何ができるかを考えるきっかけを提供しています。

特定の従業員を対象とした研修以外にも、東京・大阪・名古屋の3地域で、月2回就業時間後に「初心者手話教室」を開講しています(2001年度のべ参加人数410人)。参加者からは、手話技能検定試験の合格者も出始めています。また大和証券では、毎年新春に東京・大阪・名古屋などの地域で「新春経済講演会」を開催していますが、2002年からは業界初の試みとなる手話通訳を導入しました。このうち東京・名古屋の会場では従業員が通訳として参加しました。

従業員への活動の場と情報の提供

社会貢献室は、従業員へさまざまな社会貢献活動の紹介を行なっています。たとえば、次のような救援募金活動に

- 1 財団などの活動については、社会貢献室ホームページ
(<http://www.daiwa.co.jp/group/kouken/index-s.html>)、同パンフレット『フリースタイルで社会貢献』および2002年3月期アニュアルレポート(p.25)をご覧ください。
- 2 車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験など

あたっては、グループ内のイントラネットを通じて情報を発信し、実施しました。

- ・2000年：三宅島等噴火（約260万円）、東海地方豪雨（100万円）、鳥取県西部地震（100万円）
- ・2001年：インド西部大地震（約170万円）、米国同時多発テロ（グループ役員、グループ本社およびアメリカ大和証券より合計10万ドル）

大和証券グループでは、リサイクルを活用したボランティア活動に注目して取り組んでいます。上記の募金活動にあたっては、この方法を併用しました。これは、金銭による寄付に加え、書籍・CD・ビデオなどの寄付を募り、それをリサイクル店で換金し、募金に充てる方法です。リサイクルを利用することで、環境保全や省資源に配慮しつつ、誰もが気軽に社会貢献活動に関われる仕組みです。

また、2000年5月よりグループで行なっている使用済み切手・カード類のリサイクルでは、大和証券の本支店の店頭にも、使用済み切手・カード類の専用収集箱を設置しています。集まった切手・カードはボランティア団体に提供され、各団体はそれらを換金することで、活動資金として活用しています。お客様がご来店された際に、お気軽にご活用ください。

2. 本業を通じた社会への働きかけ

金融・資本市場の活性化に向けた社会貢献

大和証券グループは、日本経済の活性化に貢献するために、証券知識の普及をはじめ、金融・資本市場の発展に資する研究および高い専門能力を備えた人材育成を目的とする産学協同を推進しています。

2001年度は、日本を代表するビジネス・スクールである一橋大学大学院国際企業戦略研究科（ICS）と金融・経営の両分野で、京都大学大学院経済学



新入社員研修における手話教室



日本個人投資家協会 第15回会員大会2002

研究科と金融工学の分野で、それぞれ包括的に提携しました。

ICSとは、寄付講座の開設をはじめ、講師派遣、共同研究などを実施しており、京都大学とも2002年10月より同様の取り組みを開始します。

また、ICSが企業戦略論の第一人者であるハーバード大学マイケル・ポーター教授をアドバイザーに迎え、優れた戦略を実践する企業を表彰するために創設した「ポーター賞」へ大和総研が全面協力しています。

加えて、「大和証券グループ外国人留学生奨学金制度」を創設し、ICSの外国人留学生に対し奨学金を授与しています。

この他、慶應義塾大学、東北福祉大学など多数の大学・大学院へ提供講座を開講済みあるいは開講予定であり、大和証券グループの役員が講師を務め、証券知識普及の一翼を担っています。

提言

大和総研は、日本経済の方向性、経済政策のあり方、資本市場の育成など証券系シンクタンクとしての役割が期待される分野において、「提言」として特別レポートを発表しています。2001年には、「日本経済再活性化のための緊急提言」（1月）、「株式買上機構の創設に関する緊急提言」（3月）を発表しています。

日本個人投資家協会への参加

大和証券グループは、特定非営利活動法人「日本個人投資家協会」の活動を支援しています。2002年7月には、同

協会が主催した第15回会員大会2002に参加しました。当日は、「個人投資家はどうか対応する『証券税制新時代』」をメインテーマに、有識者の方々による講演のほか、個人投資家の皆様と企業とが直接コミュニケーションを図りました。

3. 文化事業協賛

「フェニーチェ歌劇場」日本公演を特別協賛

大和証券グループは、2001年6月から7月にかけて上演された、イタリアの「フェニーチェ歌劇場」日本公演を特別協賛しました。また7月3日には、1996年に焼失した同歌劇場の再建を支援するため、チャリティのスペシャル・ガラコンサートを開催しました。このコンサートには、盲導犬をご利用の方、車いす使用の障害者の方など、計20名をご招待しました。



100周年記念イベントとしてシャガール展に特別協賛

大和証券グループは、2002年5月に創業100周年を迎えたことを記念し、「マルク・シャガール展 - ポンピドーセンター&シャガール家秘蔵作品 -」を特別協賛しています。秘蔵作品を多数集めた同展は、4月20日から順次、東京・新潟・広島で公開されています。東京の展示会には、母子生活支援施設の方や障害者の方など、計210名をご招待しました。